

教育センターだより

8月



434号 令和8年 8月1日

砺波市教育センター

〒939-1398 砺波市栄町7番3号

TEL 33-1559 FAX 33-1157

E-mail tonami-ec@tonami-city.ed.jp



主体性と好奇心を育む 環境づくり

「園では今、『自分で考える』ことを大切にしているんですよ」訪れた園で伺ったこの言葉の通り、園内には子供たちの主体性を引き出す工夫が凝らされていました。

まずは、子供たちを迎える玄関です。「色への興味も持ってほしい」という思いから天井に吊るされたカラフルで透明な飾りは、太陽の光を受けて床や窓に美しい彩りを映し出していました。壁面には活動の様子や季節の掲示、床には触感を楽しめる仕掛けや動物の足跡など、子供たちの「やってみたい!」「あれ?」を引き出す工夫が徹底されています。

そして園内に進むと、さらに子供目線の環境づくりが広がっています。収穫した野菜や生き物、関連する絵本や花びら、すぐに遊べる色水セットなどの探究心を刺激する仕掛けや、色ぬり・積み木・工作などが楽しめる様々なコーナーが用意されています。試験管の色水をじっと見つめる姿は、まるで小さな博士のようでした。そこでは年齢の垣根もなく、子供たちが好きなことに好きな仲間とじっくり取り組んでいます。また、幼い1歳児のクラスでも、タイヤ付きの動かせる仕切りや手作りの道具が整えられ、よちよち歩きの子供たちが自ら選んだ場所で生き生きと遊んでいました。

幼児期の「自ら選び、試行錯誤する環境」の中にこそ、小中学校へとつながる主体的な学びの原点があります。こども園や保育所での取り組みは、校種を問わず、子供たちのやる気を引き出す環境づくりへの大きなヒントになるのではないのでしょうか。



砺波市いじめ問題対策連絡協議会開催

7月13日(月) 砺波市役所

本協議会は、学校関係者、学識経験者、相談・保護関係者で構成されています。砺波市のいじめの現状をもとに、各団体が子供たちの健やかな成長のためにどう行動していくかについて協議・検討されました。意見の一部を紹介します。

- ・児童生徒が朝昼に自身の状態を入力する「こころの天気」は、教員の見取る力を高め、トラブルの早期解決や対話のきっかけづくりに役立っている。一方で、「正直に書くと先生にいろいろ聞かれて面倒だから、普通にしておく」という子供の声も報告されており、表面化しにくい心理への配慮が今後の課題である。
- ・今年度より、子供たちが危機的状況でSOSを出せるスキル育成を目指し、「SOSの出し方に関する教育」プログラムが始まった。SCと教員によるチーム・ティーチングで授業を行うことで、SCを身近に感じ、悩みを打ち明けられるようになってほしい。

幼児教育・小学校教育接続研修会

期日：令和8年6月26日（金） 庄川小学校

○研修内容：授業参観（1年 国語科）、グループ協議、教育長講話

<振り返りより>

- ・ 幼児教育施設でのなりきり遊びが動作化につながっていることが分かった。今まで以上に遊びを楽しんでいきたい。
- ・ 子供たちが、のびのびと身体を使って表現する姿や表情が素敵だなと感じた。
- ・ 学級全体にまとまりがあり「誰一人取り残さない、みんなでがんばる」という約束が浸透していた。互いに助け合い一人一人が安心して過ごせるよう、自分のクラス運営を見直したいと思う。
- ・ 園での遊びが学びにつながっていることを深く知ることができたが、そこに気付く教師の子供の見取りは重要であると思った。



学習支援員・スタディメイト研修会

期日：令和8年7月23日（木） 砺波東部小学校

○研修内容：講義・演習 富山県総合教育センター 教育相談部

研究主事 堀川 千晶 先生、片平 尚美 先生
情報交換、教育長講話

<振り返りより>

- ・ 目の前の子供が必要としている助けは何か、そもそも助けを今必要としているのか、と一歩引いて見つめて考える事を意識しながら子供たちと向き合っていきたい。
- ・ 情報交換の場で、普段悩んでいることについてのヒントをもらい、子供とのコミュニケーションや距離の取り方に活かしていきたい。
- ・ 子供たち一人一人、困っていることや障害の度合いが違う。担任の先生と連携を取りながら子供たちが安心して学校に通えるための支援をしていきたい。

